日本共産党

森本ふみお

後援会ニュース

2010年 2月20日 No83 日本共産党森本ふみお後援会事務所井原市木之子町2721-23

TEL62-6061 FAX62-6081

2月22日から3月17日までが井原市議会2月定例会の日程です。この議会で、新年度(平成22年度)の予算が上程され審議されます。皆様の声として森本ふみお議員がこれまでに一般質問等で採り上げたうち、次のことが新年度予算に計上されており、皆様のご意見・ご要望が実現することになります。 今後も皆様のご意見・ご要望を森本ふみお議員やお近くの党員にお気軽にお寄せください。

- ◆子どもの医療費の入院費用についてのみ(外来費用は今までどおり小学校3年生まで)、 中学校3年生まで無料になります。(森本議員は、外来についても中学校3年生まで 無料にという声が多いので、これの実現を目指して引き続き奮闘すると言っています。)
- ◆建て替えを考えている出部幼稚園以外の9幼稚園で10月から給食を実施する。
- ◆6月から10地区公民館に公民館主事を配置する。
- ◆70歳以上を対象に、肺炎に掛かりにくく、肺炎に掛かっても軽くて済む効果がある、 肺炎球菌ワクチンの摂取費用の約半額を助成する。
- ◆公民館活動などで、これまでは対象外だった往復途上での事故や 怪我等も補償の対象になる。
- ◆芳井町北部の高齢者を対象に、9月から予約制のデマンド型乗り 合いタクシーの試験 的運行が行われる。(森本議員は、旧井原 市内でも要望が強いので、対象地域を拡大するよう働きかけたいと言っています。)
- ◆ロコモティブシンドローム(運動器機能低下症候群)対策として(仮称)ロコモ講座 を「いばらサンサン交流館」で実施する。
- ◆4月から市内の幼・小・中・市立高校の敷地内は禁煙になる。
- ◆西江原幼稚園跡地(約700坪)を6月頃に舗装する。

森本ふみお議員は井原市議会2月定例会で、次の6項目を質問します。 この度の質問で連続84回目の質問になります。また、皆様の声を届けた 件数は合計505件になります。

- 1. 発光ダイオード (LED) 照明への切りかえを積極的に進めては。
- 2. 老朽化が進んでいる水道管敷設がえ計画を前倒しで実施を。
- 3. 年齢に関係なくひとり暮らしの希望者には緊急通報装置の設置と市民へのPRを。
- 4. 市民の安全確保のため、消えかかっている外側線の緊急な引き直しを。
- 5. 食べ物アレルギーのある園児・児童・生徒の給食時の発作に対する対応の確立を。
- 6. 元西江原幼稚園跡地を舗装しますが、ご近所に対する「ほてり」対策と大量降雨時 の排水対策をどう考えておられますか。

周りの人に「日本共産党森本ふみお後援会」への入会をお勧めください。

Q&A 日本共産党 知りたい 聞きたい Branch 関

日本共産党が金持ちって本当ですか?

〈問い〉日本共産党が金持ちだという人がいます。毎年発表される政党の収入が多いからだというのですが、どういうことでしょうか。 (東京・一読者)

〈答え〉日本共産党は、けっして「金持ち」などではありません。

日本共産党は、企業・団体献金も政党助成金も一円も受け取っていません。党費、「しんぶん赤旗」の購読料、党支持者からの個人寄付という、党員と国民の浄財のみによって党活動の資金をまかなっています。

党員も党支持者も、悪政のもとでの生活難に直面しながら、「政治を変えたい」と の必死の思いで党財政を支えています。ですから、「金持ち」などというのは、とん でもありません。

たしかに、公表された2008年分政治資金収支報告書でみると、政党本部の収入が多いのは自民党に次いで日本共産党ですが、日本共産党の場合、収入の86%が機関紙誌代金であり、その大部分は機関紙誌発行経費にあてられるものであって、直接の政治活動にあてられる資金ではありません。

これらを勘案して各政党本部の実収入を算出すると、 自民党約227億円、民主党約140億円、日本共産 党約95億円です。自民党や民主党の方が、はるかに 「金持ち」です。

問題は収入の中身です。カネの力で政治をゆがめる企業・団体献金、国民の税金を 政党が分け取りする政党助成金が収入に占める割合は、自民党が6割以上、民主党が 8割以上です。主権者である国民からの個人寄付は自民党が1%、民主党は1%にも なりません。これでは、財政面でみて、国民のなかに根をもつ政党とはいえません。

これに対して、日本共産党は、個人寄付の額がほかの党よりも多く、また機関紙誌代金が収入の大部分を占めています。このことは、日本共産党が「しんぶん赤旗」をとおして草の根で広く国民とむすびつき、党支持者の財政的支えによって活動していることを示しています。

このように日本共産党は、財政の分野でも「国民とともに歩む」という政党本来のあり方をつらぬいている政党です。